

★コロナ関連学校方向性ニュース

保護者のみなさまへ

- 5月分は給食の申し込みができます。5月7日給食停止日のためできません。
- テスト範囲がほぼないことと授業数確保のため、1学期の中間テストは実施しません。
- 諸費の引き落としに関しては、例年通り5月からの引き落とし致しますので、口座へ入金のご準備よろしくお願ひします。
- PTA 関連についてのご連絡

※今年度はPTA 総会を実施しません。
※総会資料は、学校再開後に配付します。

※購買環境委員さんの4月最初の分担が当たっていた方で調整がつく方は、5月7日以降の学校再開後にご協力いただけたらありがたいです。
(日程の調整は本校神田教頭がおこないます)

※新1年生の方でアルトリコーダーを申し込んだ方には、学校再開後に配付いたします。(すでに商品は学校に届いています)

※河内長野市PTA 総会および河内長野市PTA 研修会(例年5月末の土曜日等に実施)については、今年度は実施しません。

※PTA 新旧役員会は、5月に実施予定です。日程は決まり次第ご連絡します。内容は、新旧役員の引継ぎです。

※PTA 常任委員会は、5月に実施予定です。日程は決まり次第ご連絡します。内容は、各委員長副委員長の決定です。

★西中プライド(生徒のみなさんに望むこと)

「表現すること」

今回は「表現すること」の中の「意見を発信すること」に関して話したいと思います。
日本人は、自分の意見をあまり語らない人が多いと言われます。たしかに、日本人学校にいるときに、現地校やインターナショナル校との交流の機会があったのですが、それらの学校の生徒は、日本人学校の生徒よりも、相対的に自己主張が強いように感じました。大人の世界でも、もちろん個人差はありますが、海外の人からは「日本人は黙っていることが多くて何を考えているのかよくわからない」と言われることもあります。日本では、古くから「相手の気持ちを察する」という考え方があり、あまり多くを語らない人も多いです。しかし、海外の人と話す場面では、自己主張することを求められます。

「意見を発信する」ためには、2つのことが必要です。

- 1、集めた情報を確認し、自分の考えとして整理し、発信すべき意見を持つ。
- 2、自分の考えを、口頭又は文章で発信する。

日本人の多くは、心の中では意見を持っているので、1の部分はできている場合が多いです。しかし、最終的な発信の2の部分を行わないことで考えがないと誤解されることがあります。もちろんプレゼンテーションなどでバンバン発信する人もいますが、海外の方に比べたら遠慮がちに見られます。

だから、西中学校の生徒のみなさんに発信力(表現力)のある人になってほしいのです。そうなりたいと願っているだけでは実現しないので、この3年間に発信する機会を多く持つてほしいのです。経験することで発信できる大人に成長して欲しいです。私がこの「校長室から」を更新するのは、一つはへたくそな文章ですが、私の文章を「読むこと」で読む力を高めてほしいからです。もう一つは、「表現すること(発信すること)」。私自身がここで考えの発信をすることでみなさんの見本になりたいと思います。だから私自身も恥ずかしながらに発信したいと思います。

★アラビアンナイト(千夜一夜物語)

前回お話したように 60 年前の砂漠しかない国の状況を一変させたのは、何といても石油の力でした。私がアブダビで暮らした 1995 年の 4 月から 1998 年の 3 月のころは、すでにアブダビもドバイも中東のマンハッタンと言われるぐらいに、都市部は近代的な街並みになっていました。高いビルが立ち並び、あちこちで新しいビルが新たに建設されていました。

今現在日本が石油を輸入している国の 1 位がサウジアラビアで 33.1%、2 位がアラブ首長国連邦で 24.4% です。それだけにこの国で紛争が起こったら日本の生活は大変なことになります。日本とアラブ諸国は、互いの命をつなぎあっていると看做しても過言ではありません。

私がアラブにいた当時のガソリンの価格はリッター 30 円。ちなみに、ミネラルウォーターもリッター 30 円。日本では考えられない石油価格に、遠慮なく燃費の悪い車に乗れました。

アラブに旅行に行こうと考えている人に注意して欲しいのは、この石油施設に関することです。間違っても写真撮影をしてはいけません。スパイ容疑で逮捕されます。石油はまさにこの国の宝ということです。

かつてセブン・シスターズ(メジャー)という 7 つの大きな会社が、世界の石油の利権を牛耳っていました。産油国といわれるアラブの国々は石油を採掘することを許可する側。石油メジャーといわれる以下の大会社は、その石油を採掘して、世界各地に売る側でした。その後、石油メジャーに搾取されていた産油国側は自分たちのもうけを安定させるために OPEC (石油輸出国機構) をつくって欧米の大きな会社に対抗しました。今は、以下の会社を退け OPEC 加盟国がほとんど原油価格に関しての決定権を握っています。

★「セブン・シスターズ」(7人の魔女) = メジャーとは次の 7 社である。

- | | |
|---------------|------------------------|
| ◎エクソン | アメリカ |
| ◎ロイヤル・ダッチ・シェル | イギリスとオランダの合併会社 |
| ◎BP | イギリス |
| ◎モービル | アメリカ |
| ◎ソーカル | アメリカ(ガルフ石油と合併「シェブロン」へ) |
| ◎テキサコ | アメリカ |
| ◎ガルフ | アメリカ(ソーカルと合併「シェブロン」へ) |

3 年間で一度だけ、海上リグといわれる海の上の石油掘削プラットホー

ムの見学に行かせてもらえました。海の下にある石油を掘削するための基地です。写真撮るだけで捕まるような場所なので、当然、許可申請は大変で、当時の大使館の大使や石油公団のトップの方の口添えで国王の許可を得て、生まれて初めてヘリコプターに乗って、海上リグまで行き見学させていただきました。そこで教えていただいたのは、日本の技術力です。当時石油は、地中にある40%ぐらいしか取り出せないと言われていました。みなさんは、石油というと地下から噴水のようにあふれてくると思いがちでしょう。しかし、実際は、そういう恵まれた油井(石油の井戸)は少なく、そういうところは、アメリカやイギリスの大きな会社が権利を持っていて、日本にはそういう国が掘るのをあきらめた油井しか回ってこなかったそうです。しかし日本人は、世界の大きな会社が諦めた油井を技術で開発していったのです。上から水やガスを入れて地下の圧力を高め、40%を超える石油を掘り出して、死んだはずの油井をものにしていったのです。遠く離れたアラブの地の海の上の基地で働く日本人の技術のおかげで、我々は石油に困らない生活ができているのです。

石油で儲けたお金がアブダビやドバイの風景を大きく変えました。私が帰国するころにこのブルジュ・アル・アラブというヨット型のビルが完成間近でした。



